

事業名：学力向上拠点形成事業

学校名：安芸太田町立上殿小学校

所在地：山県郡安芸太田町大字上殿769番地

H P : <http://www.akiota.jp/kamitonosho>

学年級：5学級 43名

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

① 研究テーマ

自己学習力を高める国語科・算数科授業の工夫
～根拠をもとに思考する授業づくりを通して～

② 研究のねらい

本校の考える「自己学習力」とは、「自ら課題を見つけ、自分なりの方法で、根拠をもとに思考し、子どもたち自ら解決していく力」である。この「自己学習力」を高めるために、次のようなプロセスで根拠をもとに思考する授業づくりを進める。

- ア 自分の考えの裏づけになる多くの根拠を持つ
- イ その根拠の信頼性を高める
- ウ 一つの問いから多くの考えを生み出す
- エ 自分の考えに不足していた根拠に気づく

昨年度は、算数科を中心に、学習過程の工夫や根拠をもとに思考するための授業改善を図り、学ぶ意欲や思考力・表現力の向上に取り組んできた。本年度は、算数科における授業改善を引き続き進めながら、その取組みを国語科に広げる。

国語科では、平成16年度のCRTの結果から、本校の児童は、他の観点に比べて「読む」能力が低いことが明らかとなった。そこで、文章のどこからそう考えたのか、根拠となった文はどこかなどを「読み取る」能力に焦点を当てた授業改善に取り組む。

具体的には、国語科及び算数科において、問題解決的な学習過程の中に、児童一人一人が根拠をもとに考える「自力解決の場」と、みんなで思考する「練り合いの場」を位置づける。

また、昨年度の課題をふまえ、本年度のねらい及び検証の指標を定める。(なお、CRTによる事後調査は本年1月に実施予定である。)

ねらい	検証の指標
① 学習過程を工夫することで、学習意欲の向上を図る。	・ CRT 「関心・意欲・態度」 5ポイント上昇 ・ 意識調査における意識の高まり
② 根拠をもとに思考させるための授業改善の徹底を図る。	・ CRT 「数学的な考え方」「読む能力」 5ポイント上昇 ・ 本校作成の思考力分析テストによる到達度 (ABC評定) で、A及びBの割合80%以上 ・ ノート及びワークシートの分析

(2) 研究組織・体制 (省略)

(3) 研究内容

【算数科】

- ① 児童が既習事項を活用することで解決でき、またその知的好奇心を刺激する課題設定・問題づくり
- ② 根拠をもとに思考し、記述するノート指導の充実

【国語科】

- ① 根拠を明らかにして考えさせるワークシートの工夫及び活用
- ② 児童の考えをつなぐ発問の工夫

【国語科・算数科共通】

- ① 本校の授業の「型」をまとめた「練り合いの進め方」(下図)に基づく授業計画の立案・実施・検証

練り合いの進め方	発問の仕方
○ ねらいに迫れていない考えから	○ よりよくするには、どうすればいいかな。
○ 間違えている考えから	○ どこを見直せばいいのかな。 ○ この問題と似た問題をしたことがないかな。
○ ねらいに迫っている考え・ねらいととらえている考えから	○ この考えを説明してみよう。
○ 全ての考えを出し、分類・比較をする	○ 仲間わけをしてみよう。 ○ よりよい方法はどれだろう。

2 授業改善の視点

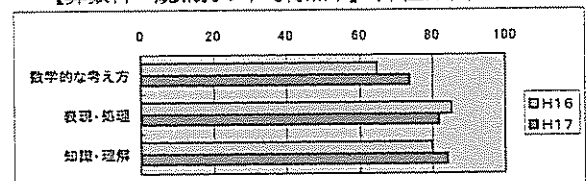
- ① 学習過程・課題設定を工夫することで、学習意欲の向上を図る。
- ② 根拠をもとに思考させるように授業改善を行うことで、児童の思考力の向上を図る。
- ③ 「練り合いの進め方」に基づく授業づくりを進める。

3 研究の成果と課題等

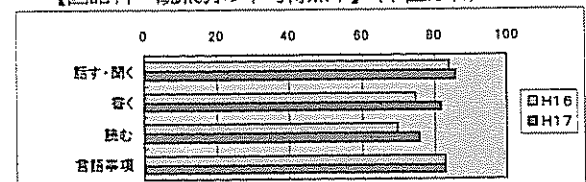
(1) 成果

① CRTテスト (全校児童対象) の結果より

【算数科 観点別の平均得点率】(単位は%)

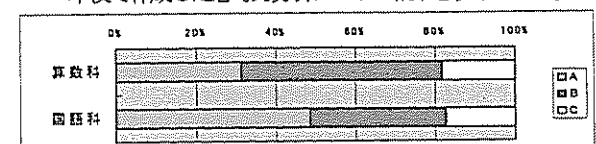


【国語科 観点別の平均得点率】(単位は%)



昨年度までの課題であった算数科「数学的な考え方」の観点、国語科「読む」の観点のいずれも、他の観点との平均得点率の差が縮まってきた。

② 思考力分析テスト (全校児童対象) の結果より 本校で作成した思考力分析テストの結果を以下に示す。

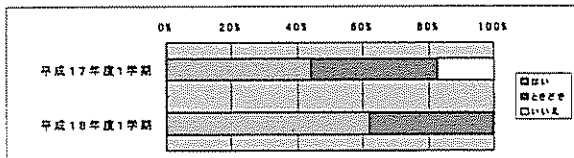


思考力分析テストの結果から、A及びBの評価が得られた児童の割合が、国語科と算数科において、約83%となっており、ともに80%を超えていることが分かる。

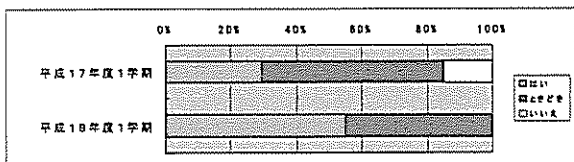
③ 意識調査（全校児童対象）の結果より

「授業が始まると、『やってみよう』という気持ちになりますか。」という質問に対する児童の回答を以下に示す。

【算数科】



【国語科】



昨年度と比べると、国語科・算数科ともに、学習意欲が高まっており、特に「いいえ」と回答した児童がなくなった。

算数科では、問題解決的な学習過程に沿って、ノート（学習プリント）の右半分に、課題に対する自分の考えを絵、図、式、説明文を組み合わせることを習慣化した。このことによって、児童は自分の思考の足跡を整理し、「練り合いの場」に生かせるようになった。

国語科では、学習課題に対して、自分の考えとともに、必ずそう考えた理由・根拠を記述するワークシートを活用した。それによって、文章をよく読んで根拠をもとに考えたり、さらに自分の生活体験に帰着して考えたりすることが習慣化してきた。

「練り合いの場」では、「自分の考えと友達のととの共通点と相違点はどこか」等の発問をすることで、考えのもとになる根拠の違いや、どちらの根拠の信頼性が高いかなどについて話し合うことができるようになってきた。（4 実践事例参照）

また、「自力解決の場」では、途中までの考えでも認め、出し合わせることを通して、どの子も自分の考えをみんなの中に出しやすくなり、お互いの考えの良さを発見し合えるようになった。

(2) 課題

「練り合いの進め方」に基づき、全学年とも校内で統一した学習過程やノート、ワークシートづくりによる授業改善を進めてきた。しかし、授業の中での児童の考えの整理や分析が不十分な場面があった。児童の多様な考えや発言を生かすための、「自力解決の場」における発問や切り返しの工夫が必要である。

また、本校で作成した思考力分析テストを検証の指標の一つにしており、その信頼性を高める必要がある。

(3) 今後の改善方策等

- ①授業の「自力解決の場」における児童の考えの整理や分析につなげる発問の工夫を図る。
- ②思考力分析テストを協力校においても実施し、テストの信頼性を高めるとともに、結果を分析する。
- ③授業研究を中心に授業改善を重ね、学級全体の結果だけでなく個の変容についての分析を進める。

4 実践事例

(1) 算数科 根拠をもとに思考し、記述するノートの指導例

4段階の流れに沿って、ノート作りをする。本時の学習課題・問題・練習問題などを書く。

1学期は、式や図は書いているが、自分の考えを説明する記述はできていない。

自分の考えを書き、「練り合いの場」での説明に生かす。まとめの段階で参考になった友だちの考えを記入していく。

ノート指導を継続することで、次第に自分の考えの根拠を記述できるようになってきた。既習事項を活用して、友だちに分かりやすく説明する記述が増えてきた。

(2) 国語科 根拠を明らかにするためのノート・ワークシートの活用例

2年生のノートより

左ページには、本文から考えた自分の意見を記入していく。

右ページには、学習のめあてとまとめる準備。

3・4年生のワークシートより

自分の考えに理由をつけるように書く。

教科書の文章に即して考えられるよう、ページ数や行を書き加えるようにしている。